

天に上げられ、神の右の座につかれた

マルコによる福音 16:15-20

（そのとき、イエスは十一人の弟子に現れて、）言われた。「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。信じて洗礼を受ける者は救われるが、信じない者は滅びの宣告を受ける。信じる者には次のようなしるしが伴う。彼らはわたしの名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語る。手で蛇をつかみ、また、毒を飲んででも決して害を受けず、病人に手を置けば治る。」

主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。一方、弟子たちは出かけて行って、至るところで宣教した。主は彼らと共に働き、彼らの語る言葉が真実であることを、それに伴うしるしによってはっきりとお示しになった。

説教

受難後のイエスは3日目に甦り、弟子たちにあらわれ、40日にわたって多くの人にも現れました。そして十一人の弟子たちに宣教命令を下し、天に上げられ、神の右の座につかれました。

それから、イエスは言われた。「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。マルコ 16:15 ,19

イエスが昇天されたあと、弟子たちは命令にしたがい世界中に宣教し、主も彼らとともに働いて「しるし」によって弟子たちの福音が真実であること（言い換えれば、でたらめじゃないぞ、と）示されました。

一方、弟子たちは出かけて行って、至るところで宣教した。主は彼らと共に働き、彼らの語る言葉が真実であることを、それに伴うしるしによってはっきりとお示しになった。マルコ16:20

この「しるし」とはなにかというと

信じる者には次のようなしるしが伴う。彼らはわたしの名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語る。手で蛇をつかみ、また、毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば治る。マルコ 16:17,18

ここで新しい言葉とは異言のことをさしています。あとは特に説明しなくてもわかるとおもいます。この主の力（まるで超能力）が弟子たちに与えられて福音は世界に広まっていきました。ルカの残した使徒行伝と弟子たちの書いた福音書（これらは聖書正典には含まれていない）にはその様子が記されて残っています。

ここで気になるのは「しるし」超能力です。福音を信じる者にはしるしが伴うとイエスは預言し、そのとおりになったのですが、現在でもこの「しるし」はあるのか、ないのか。あるとするといったい誰が「しるし」を行うものなのか、信じる者には伴うといわれたが信者であればだれでも「しるし」は行えるのか。しるしが伴わない信者はどうなるのか……。

ある考え方では「しるし」は誰にでも現れるものではなくて、神の選びによってある人には現れる、その意味では専門家が行うものだ、となります。だれもかれもが悪霊を追い払えるわけではないし、病気を治しもできない、福音を信じてても非専門家はできなくてもいい、かまわないのだ、という考え方で一般的に支持されています。

しかし、この考え方におちつくと、宣教は専門家にまかしておけばいいやってことになっていきます。するとだんだん硬直化してきて信仰が窮屈になります。その打開として歴史的にはプロテスタントが生まれ、万人祭司なんだ、みんながみんなある意味では専門家だというムーヴメントがおきました。こうなると混乱をまねきます。現在は対立は納まっていますが完全に和解しているわけではありません。おそらくこの件に関しては両者とも間違っているからでしょう。

イエスが昇天してからずいぶんと年月は過ぎました。福音は世界中くまなく広がって宣教命令は完成しています。いまの世の中、従来型の宣教は不要で

す。必要なことは福音をどう受け止めるか、どうやって自分のものにするか、自分のこととして行うかです。そこで、せかんどチャーチは福音メガネを提供します。このメガネで福音を観るとどう見えるのか、この一年、意識して観ていこうと思います。